

氏名 (法人にあっては名称)	学校法人 修道学園
住所	広島県広島市安佐南大塚東1-1-1
計画期間	令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
基準年度(*1)	令和 元 年度 ～ 令和 3 年度 (平均)

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	☒ (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) ☐ (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) ☐ (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	大学 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：8161)
事業概要	学校法人修道学園は、広島市内に広島修道大学と修道高等学校・中学校及び広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校を設置している。中でも大規模事業所である大学は7学部13学科、大学院4研究科を擁し、キャンパスの土地面積は約34万㎡、建物延床面積は約9万㎡である。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	4,694 t-CO ₂	4,694 t-CO ₂	4,966 t-CO ₂	4,782 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-5.8 %	-1.9 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*6)		4,694 t-CO ₂	4,966 t-CO ₂	4,782 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-5.8 %	-1.9 %	%	%
実績に対する 自己評価	計画目標に到達しなかったが、令和4年度からは減少した。新棟建設工事、竣工等で電気の需要が高まったが、大学における太陽光発電設備の運用開始や、校舎、グラウンドのLED化の効果が大きかったと思われる。					

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものを用いる。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び 実績に対する 自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

●3号館屋上に太陽光発電設備を設置した。

●4号館、5号館の照明器具をLED化した。

●第1グラウンド、プレイグラウンド、弓道場、3×3バスケットボールコートの照明器具をLED化した。

●電気等の消し忘れ防止のため、警備員の巡回を実施した。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

●2024年度中に6号館、体育・文化クラブハウス、第2グラウンド、ハーモニーロード外灯をLED化する予定である。

●トイレ便座および水の温度設定を冬季、夏季で切り替えた。

●学生、教職員宛に「省エネ通信」を配信して意識の向上を促した。

●クールビズが浸透し教職員のほとんどが実行していた。

●空調、照明のプログラムによるスケジュール管理を行い、無駄の少ない運用とした。

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。

*8 環境価値とは、ワセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	広島修道大学
事業所の所在地	広島県広島市安佐南区大塚東1-1-1
事業所の業種	大学
事業の概要	教育機関

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和元～令和3年度 (平均値)	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	3,678 t-CO ₂	3,678 t-CO ₂	3,966 t-CO ₂	3,796 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-7.8 %	-3.2 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		3,678 t-CO ₂	3,966 t-CO ₂	3,796 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
		0.0 %	-7.8 %	-3.2 %	%	%
実績に対する 自己評価	計画目標に到達しなかったが、令和4年度からは減少した。新棟建設工事等で電気の需要が高まったが、大学における太陽光発電設備の運用開始や、校舎、グラウンドのLED化の効果が大きかったと思われる。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

●3号館屋上に太陽光発電設備を設置した。 ●4号館、5号館の照明器具をLED化した。 ●第1グラウンド、プレイグラウンド、弓道場、3×3バスケットボールコートの照明器具をLED化した。 ●大学ホームページにて毎月の電気使用量を公表し、省エネの見える化を実施した。 ●冷房の設定温度を28℃、暖房の設定温度を20℃とした。 ●電気等の消し忘れ防止のため、警備員の巡回を実施した。

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特になし

2 その他の取組の実施状況

●2024年度中に6号館、体育・文化クラブハウス、第2グラウンド、ハーモニーロード外灯をLED化する予定である。 ●トイレ便座及び水の温度設定を冬季、夏季で切り替えた。 ●秋の中間期を省エネ月間とし、午後の全棟空調停止日を設け、エレベーターの使用抑制の呼びかけを予定している。 ●教室の保温のため、暗幕等の有効活用を呼びかける予定である。
--